

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.3 0

開催地：八代市麦島校区

平成 19 年 9 月 26 日（水）、八代市麦島校区（会場：八代市農事研修センター）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 50 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	45 名
市外	3 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横石地点の基本高水流量の 9,900m³/s という数字はピンとこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、八代においては、平成 18 年 7 月洪水における横石地点のピーク流量は約 7,100m³/s（速報値）でした。当時の洪水現象と流量の数値を合わせて考えると、大まかな目安にはなると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・人吉地点で 4,000m³/s まで流せるとのことだが、4,000m³/s が流れた場合、人吉の下流は大丈夫なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人吉市から下流に位置する球磨村、芦北町、八代市坂本町等では、地盤が低いところもあることから、人吉地点 4,000m³/s を下回る洪水でも家屋等が浸水するおそれがあり、実際、近年でも平成 16 年、17 年、18 年と 3 年連続して浸水被害が発生しています。これらの地区についても、できるだけ早期に対策を講じていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・100 年に 1 度の規模の計画ということだが、（大規模な被害のあった）S40 年から 100 年ということなのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで蓄積された 50 年程度の洪水のデータを基に、全国で一般的に用いられている計算手法のひとつを用いて 100 年に 1 回起こり得る洪水の規模を想定したものです。
<ul style="list-style-type: none"> ・スライドで豊原が浸かったという説明があったが、どこが浸かったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の洪水時において八代市内の左岸側に洪水が氾濫している状況をお示しするために用いた写真について、写真に写っている場所（渡町；現在の球磨川河川敷スポーツ公園付近）と説明に使った地名（豊原）が一致していませんでした。報告会で戴いたご指摘を踏まえ、後の報告会では説明を改めさせて頂いたところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・農用地、耕地の洪水緩和機能に注目すべき。水田は水をため、地下水をつくっていく。水田の洪水緩和機能について小委員会では具体的にどう論じられたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本高水のピーク流量の検討にあたっては、実際に球磨川流域で観測した洪水時の降雨量と河川流量のデータを用いて、球磨川流域における降雨量と河川流量の関係を求めています。従って、結果として、この関係式は球磨川流域における森林や水田等の実際の洪水緩和機能も反映されたものとなっています。 ・小委員会において、水田の洪水緩和機能に特化した議論はありませんでしたが、上で述べた関係式を用いることにより、結果として、水田の洪水緩和機能も踏まえ、基本高水のピーク流量等が算定されていることとなります。
<ul style="list-style-type: none"> ・棚田 1.6ha を含む 67ha の田んぼにおいて、全体で 2.4%に過ぎない 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本高水のピーク流量の検討にあたっては、実際に球磨川流域

<p>棚田をほったらかした場合、1/100のピーク流量が38%増えたという農水省の資料がある。水田の貯水、保水、水質を守る役割をきちっと評価すべき。</p>	<p>で観測した洪水時の降雨量と河川流量のデータを用いて、球磨川流域における降雨量と河川流量の関係を求めています。従って、結果として、この関係式は球磨川流域における森林や水田等の実際の洪水緩和機能も反映されたものとなっています。小委員会において、水田の洪水緩和機能に特化した議論はありませんでしたが、上で述べた関係式を用いることにより、結果として、水田の洪水緩和機能も踏まえ、基本高水のピーク流量等が算定されていることとなります。</p>
<p>・スライドの説明にあった古い萩原橋の左岸側は、もともと遊水地になっていて浸かって当然のところ。洪水で浸水被害があったと言わないで欲しい。</p>	<p>・過去の洪水時において八代市内で左岸側に洪水が氾濫している状況をお示しするために用いた写真について、写真に写っている場所（渡町；現在の球磨川河川敷スポーツ公園付近）と説明に使った地名（豊原）が一致していませんでした。報告会で戴いたご指摘を踏まえ、後の報告会では説明を改めさせていただきます。</p>
<p>・以前の八代校区の報告会で豊原、高田などが浸かったとの説明があったが、地元の方は浸かった覚えが無いと言っている。浸かったというのは事実か。</p>	<p>・過去の洪水時において八代市内で左岸側に洪水が氾濫している状況をお示しするために用いた写真について、写真に写っている場所（渡町；現在の球磨川河川敷スポーツ公園付近）と説明に使った地名（豊原）が一致していませんでした。報告会で戴いたご指摘を踏まえ、後の報告会では説明を改めさせていただきます。</p>
<p>【球磨川の治水対策について】</p>	<p>・上流からダムに入ってくる流量がどれくらいの量の時にどれくらいゲートを開けて下流に流すか、といった操作方法は、ダム下流に急激な水位上昇がないように予め定められています。なお、報告会で荒瀬ダムの操作を懸念するご意見があったことは、荒瀬ダムを管理する熊本県企業局にもお伝えしました。</p>
<p>・球磨川が1級河川となり県管理から国土交通省管理となり堤防が強化されて、洪水が減ったと感じる。しかし、荒瀬ダムについて、流量が増えたときに、荒瀬ダムのゲートを開ける警報が鳴ったとたんに水が溢れてきて堤防を越えた経験がある。ダムの開閉のタイミングで洪水がおきることがあるのではないか。ダムがもうだめだからと開けたら洪水ということがあるのではないか。</p>	<p>・スライドでご紹介した球磨川7.6kmの断面は深掘れ箇所1つの例としてご紹介したものです。現在、深掘れが著しい新萩原橋下流において対策を実施しています。</p>
<p>・萩原堤防の7.6km地点が一番危険だと聞いていたが、他の深掘れ箇所から改修していくという話だった。萩原堤防の7.6km地点は危険でないという認識でよいのか。</p>	<p>・ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画の際に検討していくこととなります。</p>
<p>・昨年川内川の流域で降った大雨が球磨川流域で降ったとしたら、川辺川ダムで対応できるのか。</p>	<p>・砂礫河床が喪失し人吉層が露出すれば、河道が維持できず、橋梁や護岸など河川内の施設全体に支障が生じるだけでなく、アユなどの魚類の生息場である瀬や舟下りの名所となっている瀬が失われることとなります。</p>
<p>・人吉市内で掘削すると人吉層が露出し、橋脚の基礎等が露出するおそれがあるので掘削はできないとのことだが、露出したら橋脚を補強すればよい。費用対効果の検討はしているのか。</p>	<p>・いわゆるフロンティア堤防については、10年ほど前、洪水が堤防を越えてもすぐには決壊しにくい堤防を目指して、全国4箇所を試験的に施工され、球磨川でも検討されたことがあります。しかしながら、フロンティア堤防には課題が多く技術的に確立していないことから、事業化に至っていないのが現状です。</p>
<p>・フロンティア堤防の可能性、その限界について聞きたい。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・ 麦島校区は南北を川に囲まれている。天井川になっているとしたら危険ではないのか。その対策はどう考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麦島校区付近では、基本方針で定めた計画高水流量(横石7,800m³/s)に対して、十分な高さの堤防が整備されています。しかしながら、想定外の洪水が発生する可能性もあることから、国土交通省では、その場合でも被害を最小限に止めることができるよう、例えば、八代市のハザードマップ作成への支援など避難警戒体制の一層の充実に努めて参りたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 五木小川、川辺川に行ったが、堤防や道路などがずたずたにやられていて、崩落箇所もいくつかあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五木村や泉町の道路や河川の復旧については、管理者である熊本県が災害復旧に取り組まれていると聞いています。
<p>【球磨川の環境について】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜を堤防に植えてはダメだと国交省から言われたことがあるが、先ほどのスライドで堤防に桜を植えている写真があった。積極的に桜を植えていいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的に、堤防には桜などの木や花を植えると堤防に穴があいてしまい、堤防が弱くなってしまうおそれがあるため、ご遠慮いただいておりますが、堤防の厚みに余裕がある箇所などでは可能な場合もあります。桜を植えるご希望があれば、事務所出張所にご相談いただければと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国で尺鮎は球磨川にしかいない。昔は八代でもたくさんとれていて、運動会の弁当のおかずはみんな鮎だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省では、今後川づくりを進めるにあたっては、関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生等にも取り組むなどアユなどの魚類の生息にも配慮することとしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の鮎の放流は75万匹とのことだが、昔は320万匹放流していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遡上するアユが減少していることは認識しています。国土交通省では、今後川づくりを進めるにあたっては、関係機関と連携して産卵場となる瀬の再生等にも取り組むなどアユなどの魚類の生息にも配慮することとしています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の球磨川は子供が川の中で遊ぶところも無い。水が濁っていて苔が生えない。ヘドロばかりで魚の住む川ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球磨川の水質を悪化させている原因としては、人々の生活スタイルの変化など様々な要因があることから、下水道等の事業を行っている地元市町村のみならず、水質への意識向上の観点から地域の住民の方々とも連携を図りながら、水質の保全・改善に努めていく考えです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡の遠賀川は60年間鮎が戻ってこなかった。一度失われた自然は取り戻すことができない。川辺川ダムには反対。美しい自然を子孫に残さないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり、一度失われた自然環境を取り戻すことは非常に難しいと思います。今後、川づくりを行うにあたっては、治水と河川環境の兼ね合いを考えつつ、現在ある良好な自然環境については、できるだけ保全していきたいと考えています。また、ダム等の具体の施設の整備については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。いただいたご意見は、その際の参考にさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 球磨川堤防を歩いていると放置車両が10台くらいある。住民の力では排除できない。国交省で排除できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の皆様にはご心配をおかけし申し訳ありません。ご指摘につきましては、所有者に撤去をお願いして、それでも撤去いただけない場合は、地元の市役所や警察にも協力をいただいて、撤去を行っているところです。
<p>【その他】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田の保水機能を評価し、減反ではなく、耕作地を増やせないか。バイオエタノールで米作りをすれば(米を使ってバイオエタノール作りをすれば)地域振興にもなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本高水流量の検討にあたっては、実際に球磨川流域で観測した降雨量と川に流れ出した流量のデータを用いて、球磨川流域における降雨量と河川の流量の関係を求めています。従って、結果として、この関係には森林や水田等の洪水緩和機能も考慮さ

れたものとなっています。

ご指摘のように、球磨川の洪水対策を考えるうえにおいては、現況の森林や水田を保全していくことは重要なことであると考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。